小学校社会科補助資料

約２万年前の建物の跡　―田名向原遺跡―

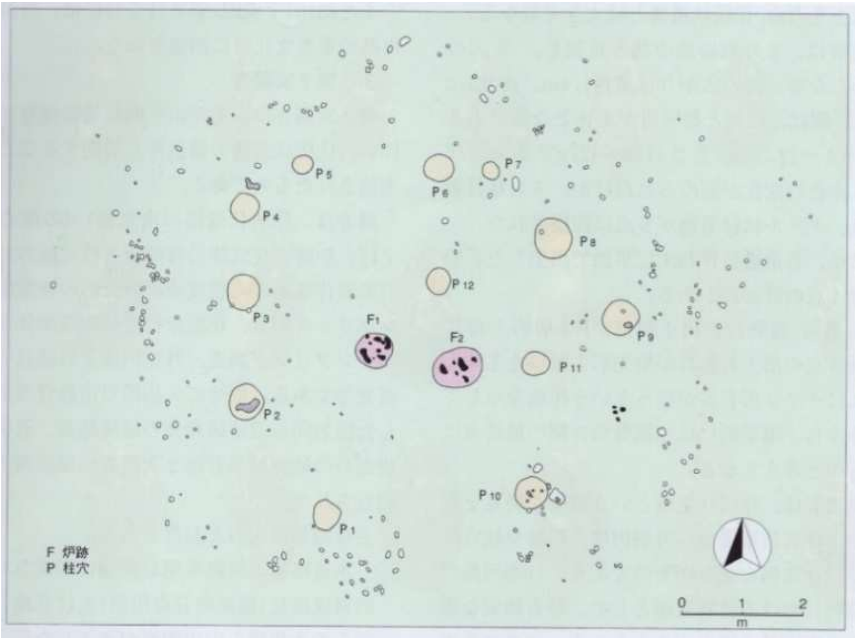
１　旧石器時代と住居状遺構

日本では、縄文時代が始まるまでを、旧石器時代と呼んでいます。人びとが土器をまだつくっていない時代です。このころの人びとは、えものを追って移動する生活をしていて、洞くつや岩かげ、簡単なつくりの家で生活していたと考えられています。

その旧石器時代にあたる、およそ２万年前の建物の跡と考えられる遺跡が、相模原市内で見つかっています。中央区田名塩田にある田名向原遺跡です。

平成９年３月に発見された田名向原遺跡では、地表から２ｍ５０㎝の深さより、火をたいたと思われる炉の跡が２か所、柱の穴と思われる跡が１２か所、それらをとりかこむように直径１０ｍくらいの大きな円をえがくようにおかれたまるみを帯びた多くの石や、大量の石器、石器をつくった跡などが見つかりました。

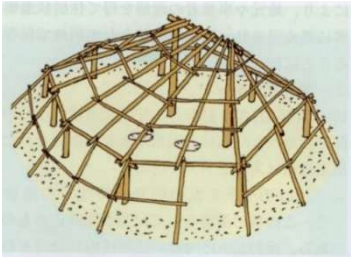
このように炉の跡・柱穴の跡、多くの石器などがそろって見つかった旧石器時代の遺跡は、日本国内でほとんどありません。そこで、旧石器時代の「住居状遺構」として、国の史跡に指定されました。

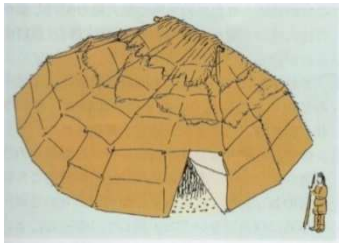


住居状遺構実測図（「相模原市史　考古編」より）

２ 住居状遺構はどんな建物だったのだろう

見つかった住居状遺構が実際はどんな建物だったのか、発掘の結果などをもとに、研究者の方が、左の絵のように想像しました。２つの柱が中央で支え、動物の皮でおおわれ、その皮のすそにあたる部分に、見つかった多くのまるい石があったのではないかとも、考えられています。

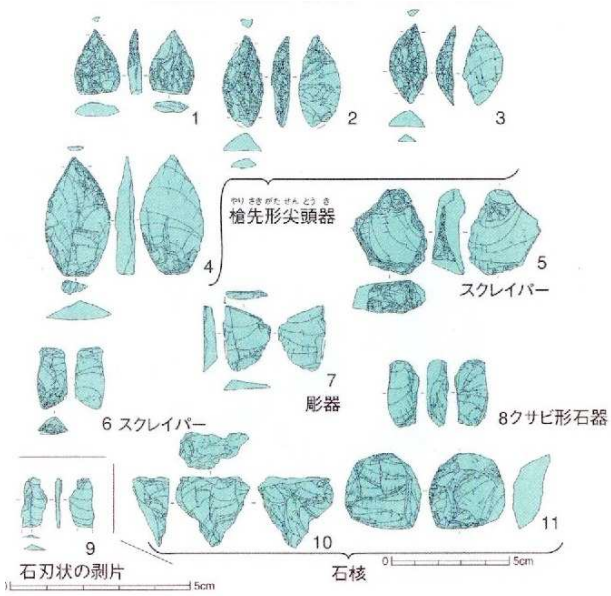




住居状遺構の上屋復元(「相模原市史　考古編」より)

３ 住居状遺構から発見されたもの

住居状遺構からは尖頭器(せんとうき)など約 3,000 点もの石器が見つかっています。そのうちの約８割は黒曜石(こくようせき)で作られています。その黒曜石を分析したところ、多くが長野県でとれたものでした。この時代、どのような方法で黒曜石を遠くから運んだのか、今のところわかっていません。



「田名向原遺跡の石器群の評価について」白石浩之
『田名向原遺跡Ⅱ』 2004.3　相模原市教育委員会を加工

※住居状遺構は、史跡田名向原遺跡公園で見ることができます。公園の近くの旧石器ハテナ館には、住居状遺構の説明や、発見された石器も展示してあります。

相模原市立史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館(旧石器ハテナ館)

〒252-0245 相模原市中央区田名塩田3-23-11

☏042－777－6371

2025.2